

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 7章 25～40 節>

①パウロの物言いに注目 — 押しつけない物言いをする理由は？

**「わたしは主の指示を受けてはいませんが、主の憐れみにより信任を得ている者として、意見を述べます」(25)「こうするのがよいとわたしは考えます」(26)**。パウロの控えめな物言いが目を引きまします。それはなぜなのかを考えることが大事な個所です。

②「結婚か独身か」の問いは熱いが、パウロの答えは至極冷静。

コリントの信徒から繰り返し問われた問いは、「結婚していいのか」でした。色んなケースに分けて、真剣な思いから出された問いでした。パウロはそれに対して、「聖書にこうあるから、こうせよ」といった言い方はせず、自然に湧いて来る感情と終わりが近いという二つの点から、至極冷静に納得できる説明を重ねています。

③各自が到達したところから、喜んで主にお応えして生きる！

**「結婚しても罪を犯すわけではない」(28)**。この答えが、「信仰は無理を求めるものではない」とするパウロの考え方をよく表しています。「主の恵みにお応えしたい」という思い無しの信仰はあり得ませんが、**「無理に思いを抑えつけたりせずに」(37)**、心から喜んでできる**「主に喜ばれること」(32)**に取り組むことから始め出せばいいのです。**「私たちは到達したところに基づいて進むべきです」(フィリピ 3:16)**。

④終わりが遅延した今なら、パウロはどう答えるだろうか？

パウロが思っていたようには終わりは来ませんでした。今、パウロが生きていたら、語る内容は違うでしょうし、違っていいと思います。なぜなら、「終わりが近い」と思っていた時に、すでに、不自然で無理な主への従いを求めていなかったからです。パウロは、主に全てを捧げて生きることが喜びであり、そのためには一人であることが一番いいと考える特別な人でした**(28, 38)**。私たちにも、私たち一人一人の状況の中で神様に感謝して歩める道が備えられています。主がそのために用意して下さった教会の礼拝に出て、御言葉の解き明かしに聞きながら生きて行く中で信仰の理解と主への信頼が深まり、さらに上を目指して歩めるようになるのです！